

法王の恩赦

既報の通り (vol.13 No.8 参照) 現ローマ法王の執事であったパオロ・ガブリエレは、ヴァチカンの中の「カラス」として、昨年5月25日に逮捕され、ヴァチカンの牢屋に入っていた。10月6日には裁判によって、18カ月の実刑が言い渡され、引き続き牢にいた。その後自宅監禁となり、ヴァチカン市内の自宅に起居していたが、安全性を鑑みて、10月25日再度入牢となった。

事件に非常に頭を悩めていたローマ法王は、12月22日にガブリエレと12分程話し合い、彼を赦免した。これは人間の決定ではなく、神の決定だという。ガブリエレはヴァチカン市国を出なければならないが、仕事は与えられ、家族にも家が与えられる。

法王ツイッターを習う

現法王は昨年12月12日、アメリカのフィラデルフィアにあるヴィッラノヴァ大学で学ぶ最終学年のミカ・ラブ嬢とアンデリュウ・ジャディック氏をヴァチカンのパオロ6世謁見ホールに招き、ツイッターのやり方を教わった。そして、午前11時7分に世界に向け、メッセージを発信した。そのメッセージは「親しき友よ、ツイッターを通して諸君と一緒にすることは喜ばしいことだ。君たちの素晴らしい返事を待っている。心から君たちを祝福する」というものだった。最初は英語で送られ、続いてイタリア語、さらにスペイン語、ポルトガル語、ドイツ語、ポーランド語、フランス語、アラビア語で送られた。この呼びかけに150万人が呼応した。このようにITを使った呼びかけは、今を去る82年前の1931年2月12日16時49分に法王ピオ11世が、ヴァチカン放送局開局に際し、ラジオで全世界へ呼びかけたことに匹敵する出来事だ。そのツイッター発信後、多くの信者から多くの問いが寄せられた。そして法王は信仰に関して、3つの要素を含んだ返事を出している。それらは、1) 祈りの時にキリストと対話すること、2) 聖書に語られるキリストの言葉を聞くこと、3) 君が必要とする人の中にいるキリストに出会うことだ。

ヴァチカンの支持政党

一昨年11月ベルルスコーニを中心とした中道右派政権が倒れ、政党にとらわれない技術者内閣として生涯上院議員のマリオ・モンティ氏がイタリアの大統領ナポリターノから指名され、首相の座につき、13カ月間首相として、財政的に行き詰まったイタリア経済再生のために働いた。閣僚はほとんど政党に関係なく、それぞれの分野でエキスパートといわれる人が呼ばれ内閣を構成した。なかには、聖エジディオ共同体の創始者のアンドレア・リッカルディ氏が国際関係大臣として入閣し活躍していた。この暫定的内閣は、イタリアも財政的に落ち着きを取り戻し、経済再生への動きが軌道に乗ったということで、昨年12月末に総辞職した。イタリア再生のために道すじをつけたモンティ氏は国民的に人気を博した。もちろんモンティ氏の経済政策に反対していた政党もあるが、大統領がバックアップする彼は強かった。モンティ氏は、本年2月24日～25日に行われる総選挙に首相候補として立候

補することを宣言した。これは自分の作った政策が忠実に実行されるかを見極めるためでもある。彼は敬虔なカソリックの信者だ。首相になってからのヴァチカン訪問もローマ法王との謁見も大きく報道された。そのような関係から、ヴァチカンとしては、公式には支援を発表していないが、「イタリア司教会儀」は、議長でジェノヴァの大司教のアンジェロ・バニャスコの口を通して、次期選挙にはモンティを支持するとはっきり表明した。カソリックの司教達が作る新聞『AVVENIRE』の主幹マルコ・タルクイニの確信的な声明を記そう。

問) 教会はモンティ氏と共にいるのか?

答) 教会はイタリアと共にある。教会は人々と共に、つまり、司祭も男も女も一つの問題として、困難を伴うが真の人間の養成を心掛けている。イタリアはカソリックの人が多く、なかには政治を志す人も多く、その一人がモンティということだ。私もイタリア人の一人だ。モンティを支持する。彼はイタリアに関して、ヨーロッパに関する問題でもしつかりヴィジョンをもっている。彼は信頼出来る人間だ。

子供たちのサンタクロースへの手紙

毎年クリスマスの近づく頃、子供たちはサンタクロースからなにかもらえると非常に楽しみにしている。そしてサンタクロースに手紙を書き、いろいろな願いをする。昨年、クリスマス前に、イタリアの7歳から9歳の子供たちがサンタクロースに手紙を書いた。その中で女の子の希望の品はバービーといわれる人形、男の子は積み木細工に似ているレゴが多かった。なかには、時代を反映してか、iPadの希望者は全体の30%に達した。おもちゃなどを希望した子供が多かったけれど、4人に1人は世界に愛が満ちることを願ったし、5人に1人は戦争の終焉と飢餓の根絶を願っている。また、家庭内にあっては、親夫婦が喧嘩をしないで仲良くして欲しいこと、また親子の間に何かよくないことが生じた時には速やかに仲介して欲しいとの要望もあった。

キリスト教徒の悲劇

宗教研究者で社会学者のマッシモ・イントロヴィンニ氏は、ある講演会で次のように述べている。「昨年2012年、キリスト教徒ということで、10万5千人が殺されている。つまり、毎日300人ぐらいの割合で殺されている」。一番危ない所は世界に3カ所あるという。1番目は北朝鮮のような全体主義国家、2番目にはインドのような民族的ナショナリズムの強い国、3番目に、マリからパキスタンへ続くが、イスラム過激主義の国だ。つまり、アフリカ、アジアが危険度の高い地域である。

ヴァチカンは「宗教の自由」を厳正な目で見ている。上記の3つの地区では、その状態が怪しい。それゆえに法王はよく「宗教の自由」を訴えている。

カソリック教徒が一番危険な所は、昨年の例から見ると、アフリカのナイジェリアだ。昨年暮れのクリスマスにも多くの殉教者が出ている。

(14頁へ続く)